

カナダの牛肉輸出見通し ～生産の現状を中心に～

(独) 農畜産業振興機構
調査情報部国際調査グループ
渡辺 陽介
2019年3月18日



本日の構成

1. はじめに
2. 肉牛・牛肉生産の状況
 - 現地肉牛農家の紹介
3. 今後
4. まとめ

1. はじめに

主要国の牛肉生産量および輸出量

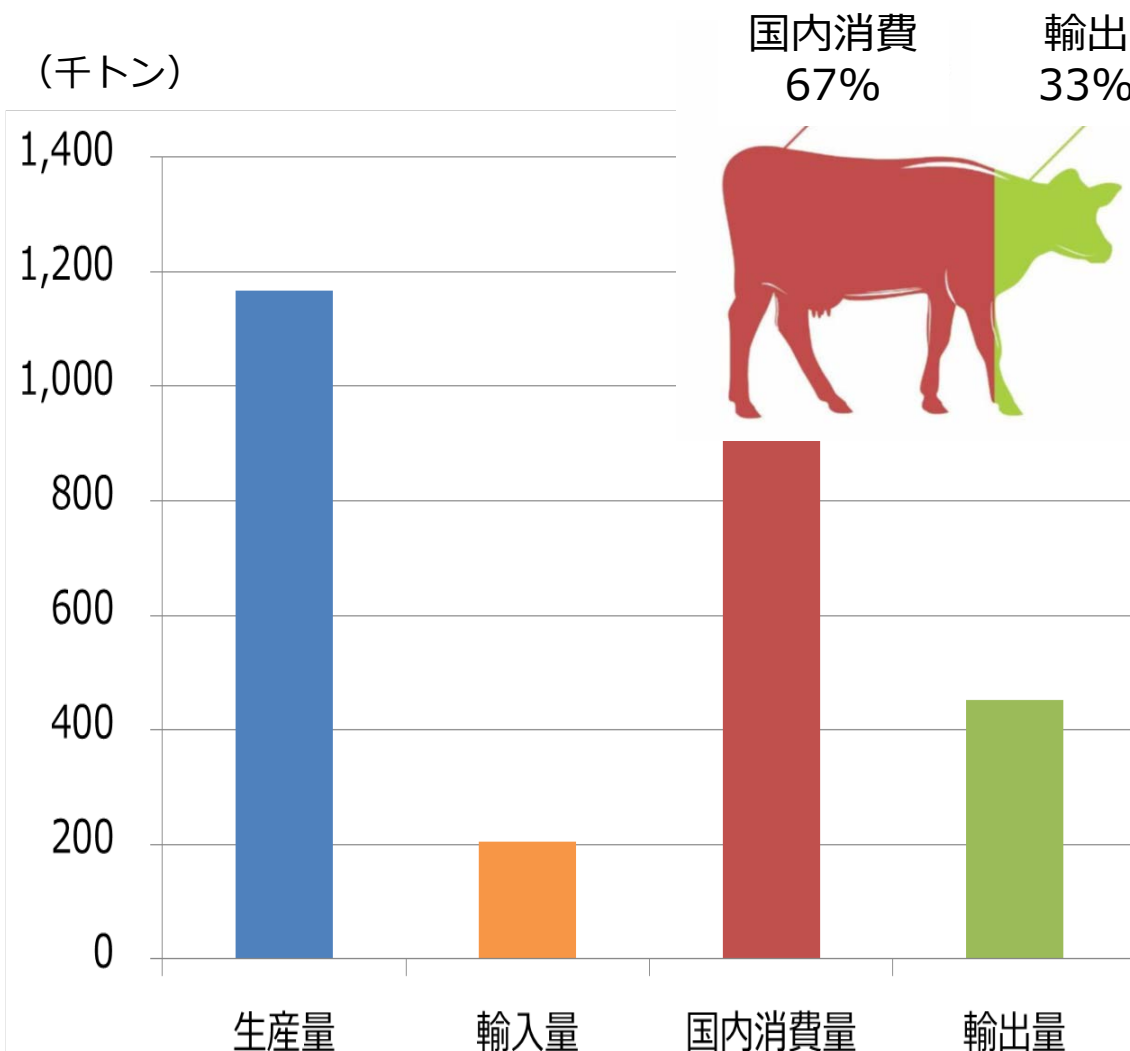
牛肉生産量（2017年）

順位	国名	千トン	シェア
1位	米国	11,943	19.4%
2位	ブラジル	9,550	15.5%
3位	E U	7,863	12.8%
4位	中国	7,260	11.8%
5位	インド	4,250	6.9%
6位	アルゼンチン	2,840	4.6%
7位	豪州	2,149	3.5%
8位	メキシコ	1,925	3.1%
9位	パキスタン	1,780	2.9%
10位	トルコ	1,399	2.3%
11位	ロシア	1,336	2.2%
12位	カナダ	1,201	1.9%
合計		61,624	100.0%

牛肉輸出量（2017年）

順位	国名	千トン	シェア
1位	ブラジル	1,856	15.5%
2位	インド	1,849	15.4%
3位	豪州	1,485	12.4%
4位	米国	1,297	10.8%
5位	N Z	593	4.9%
6位	カナダ	465	3.9%
7位	ウルグアイ	436	3.6%
8位	パラグアイ	378	3.2%
9位	E U	369	3.1%
10位	アルゼンチン	293	2.4%
11位	メキシコ	280	2.3%
12位	ベラルーシ	206	1.7%
合計		11,984	100.0%

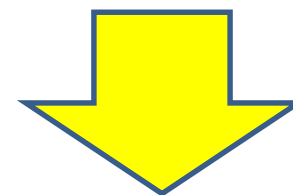
カナダの牛肉需給



人口

約3600万人

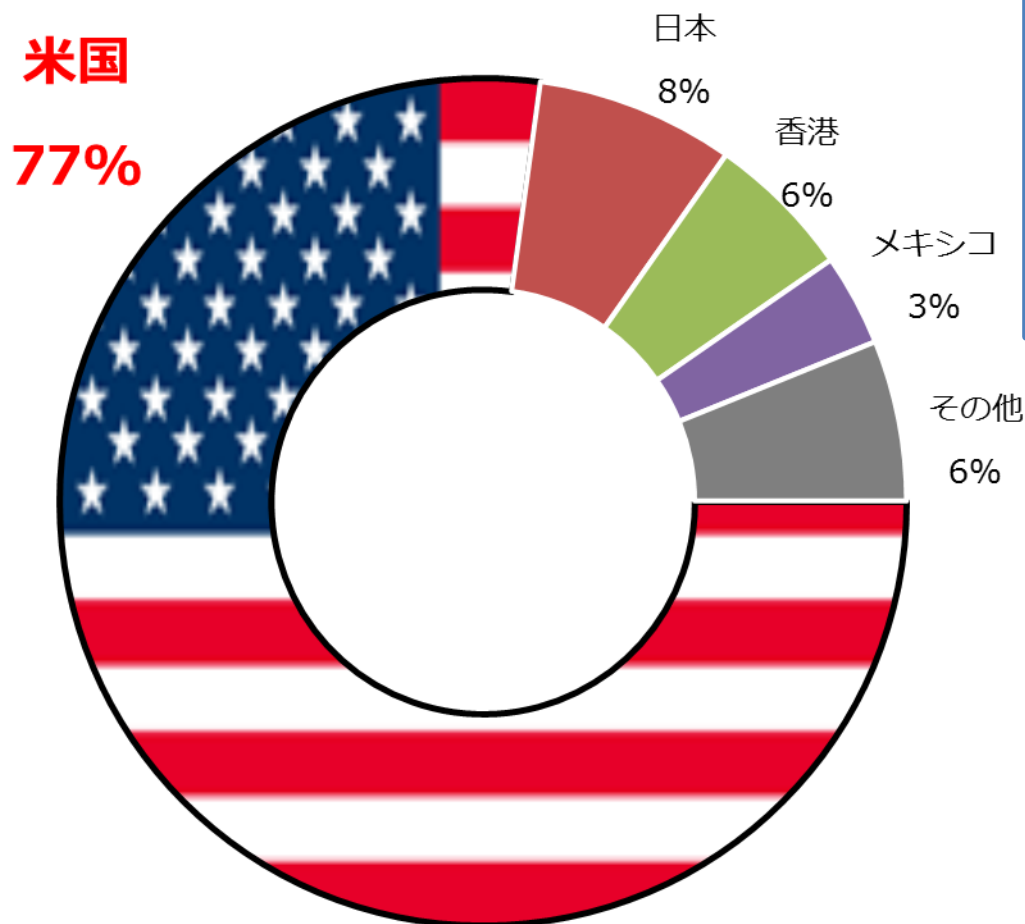
(米国の人口：約3億3000万人)



輸出の占める割合
が比較的大きい

カナダの牛肉輸出先・輸入元

カナダの牛肉輸出先（2018年）



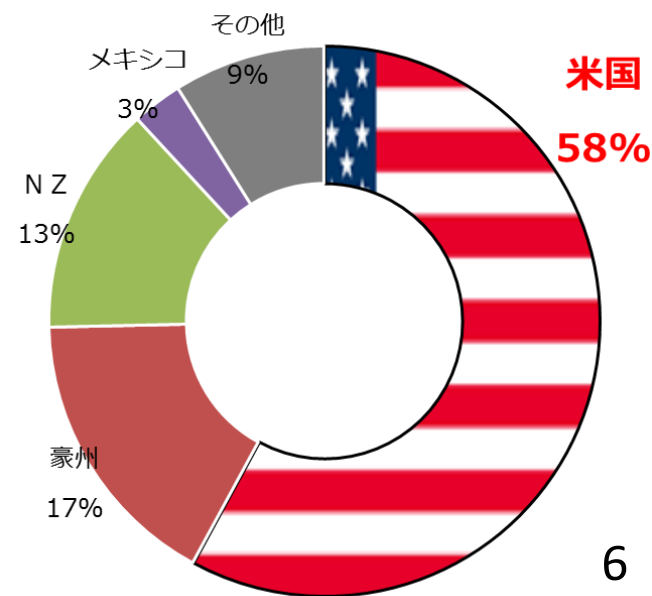
資料 : Global Trade Atlas

【NAFTA】

牛肉・生体牛ともに
カナダ ⇔ 米国

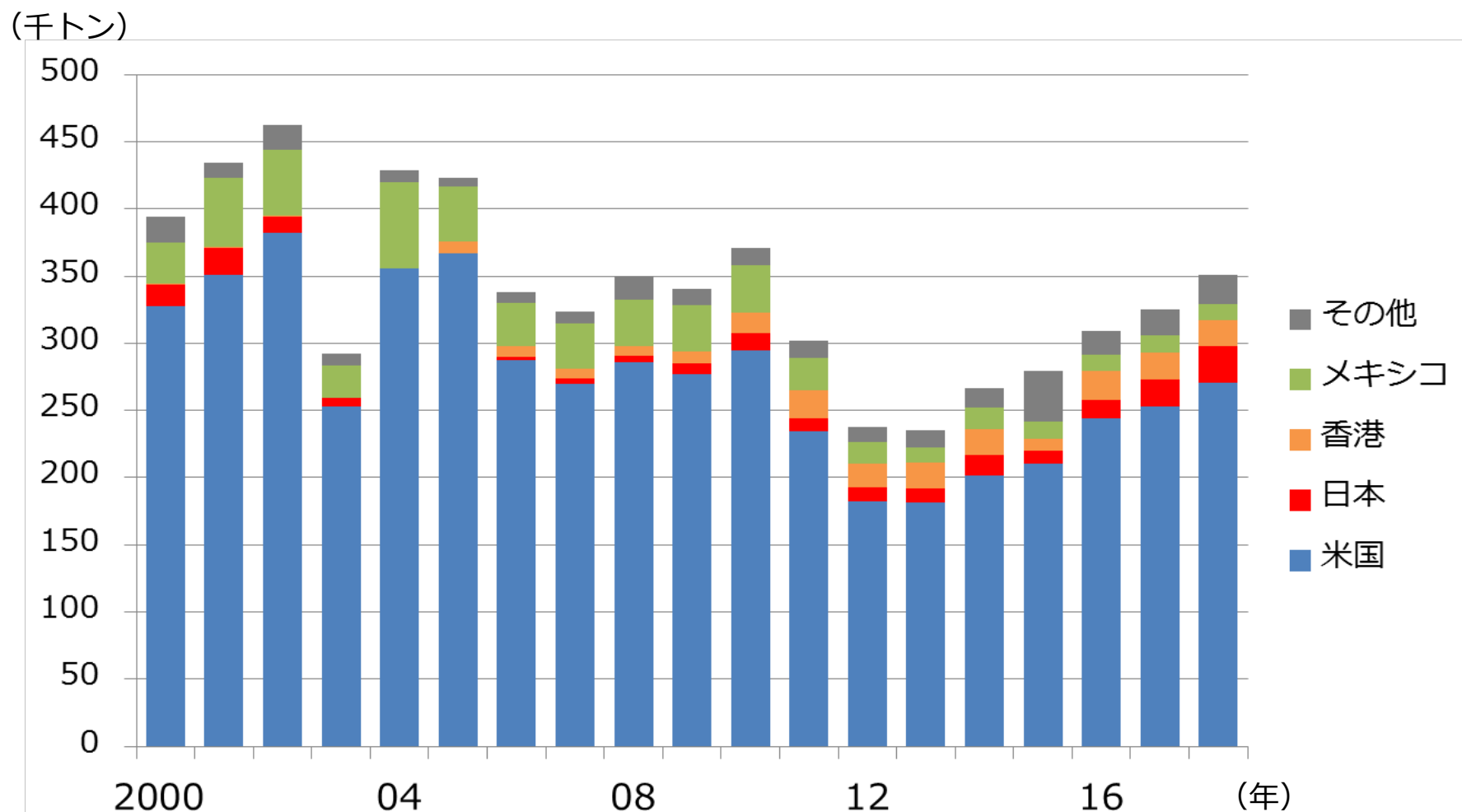
無税

カナダの牛肉輸入元（2018年）



牛肉の輸出量

➤ 近年は、米国向けを中心に増加傾向



資料 : Global Trade Atlas

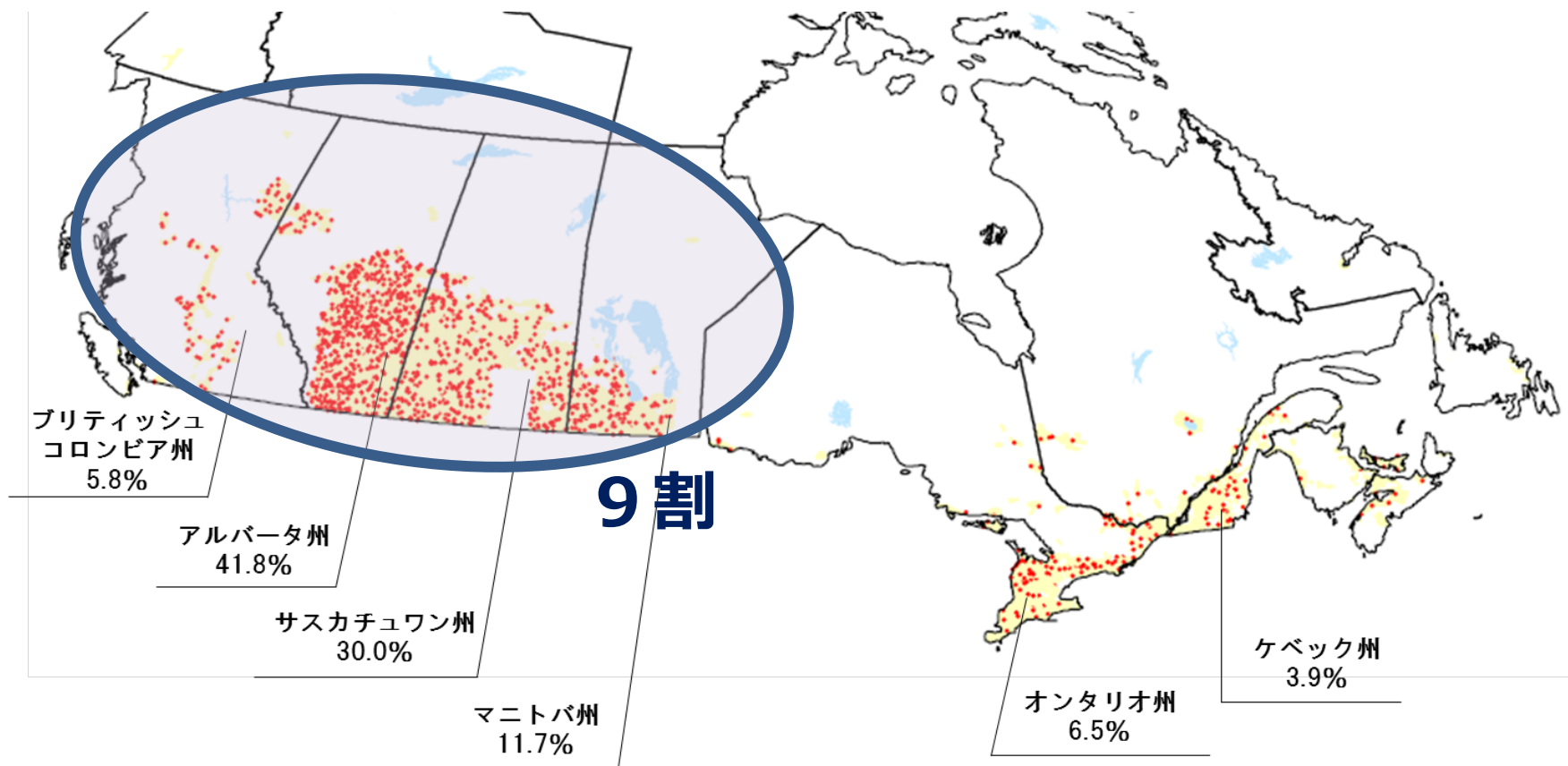
注 : HSコード0201、0202。



2. 肉牛・牛肉生産の状況

飼養分布

➤ 経産牛飼養頭数（繁殖経営）は、西部に偏在



資料：カナダ統計局

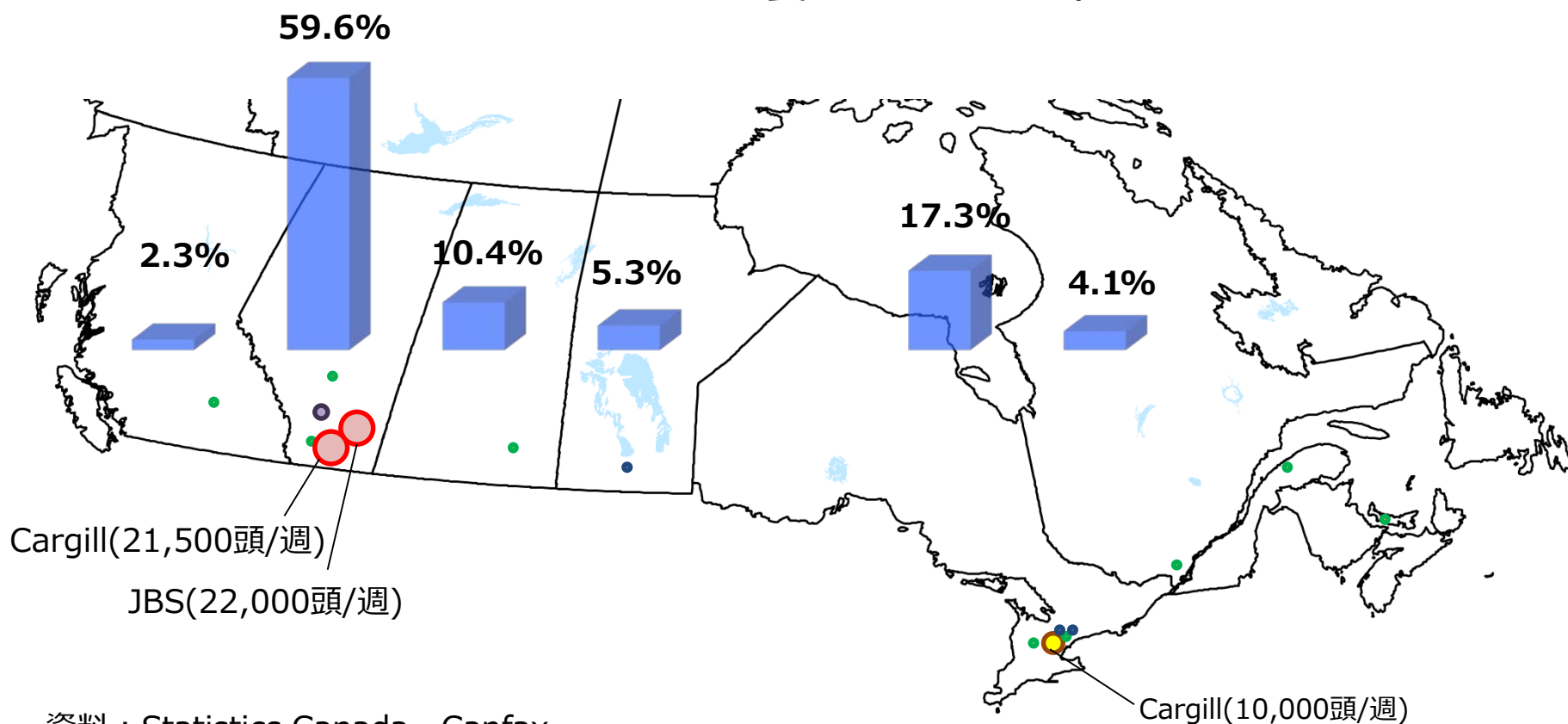
注1：赤点1つにつき肉用経産牛2500頭を示す。

2：州名の下の数値は飼養割合。

肥育牛及び牛肉パッカーの分布

- 肥育牛飼養割合は、アルバータ州が6割を占める
- アルバータ州に2大プラントが存在

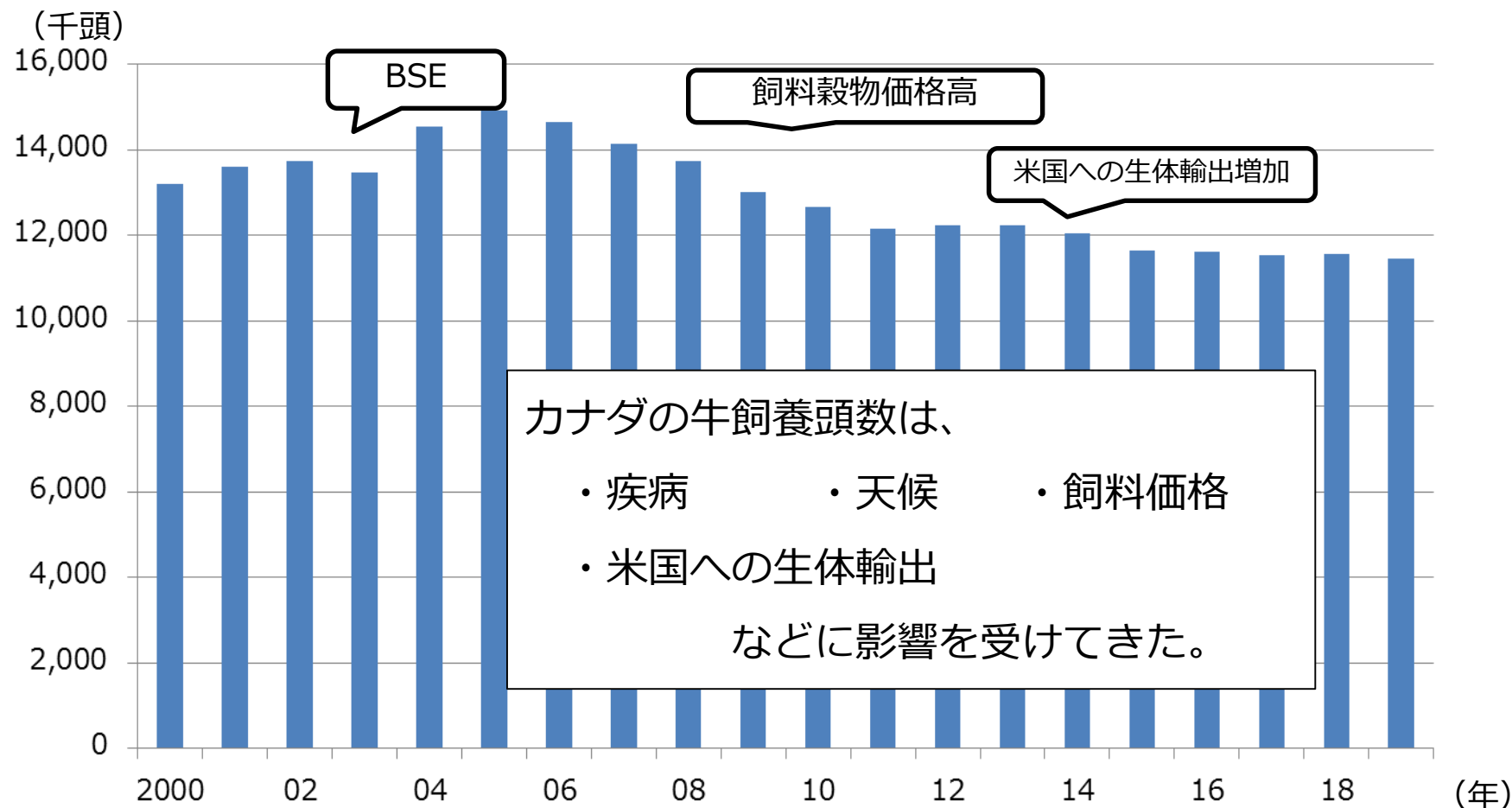
肥育牛の州別飼養割合（2016年）



資料：Statistics Canada、Canfax

牛飼養頭数

- 2005年をピークに**減少**傾向
- 近年はほぼ横ばい（わずかに減少）

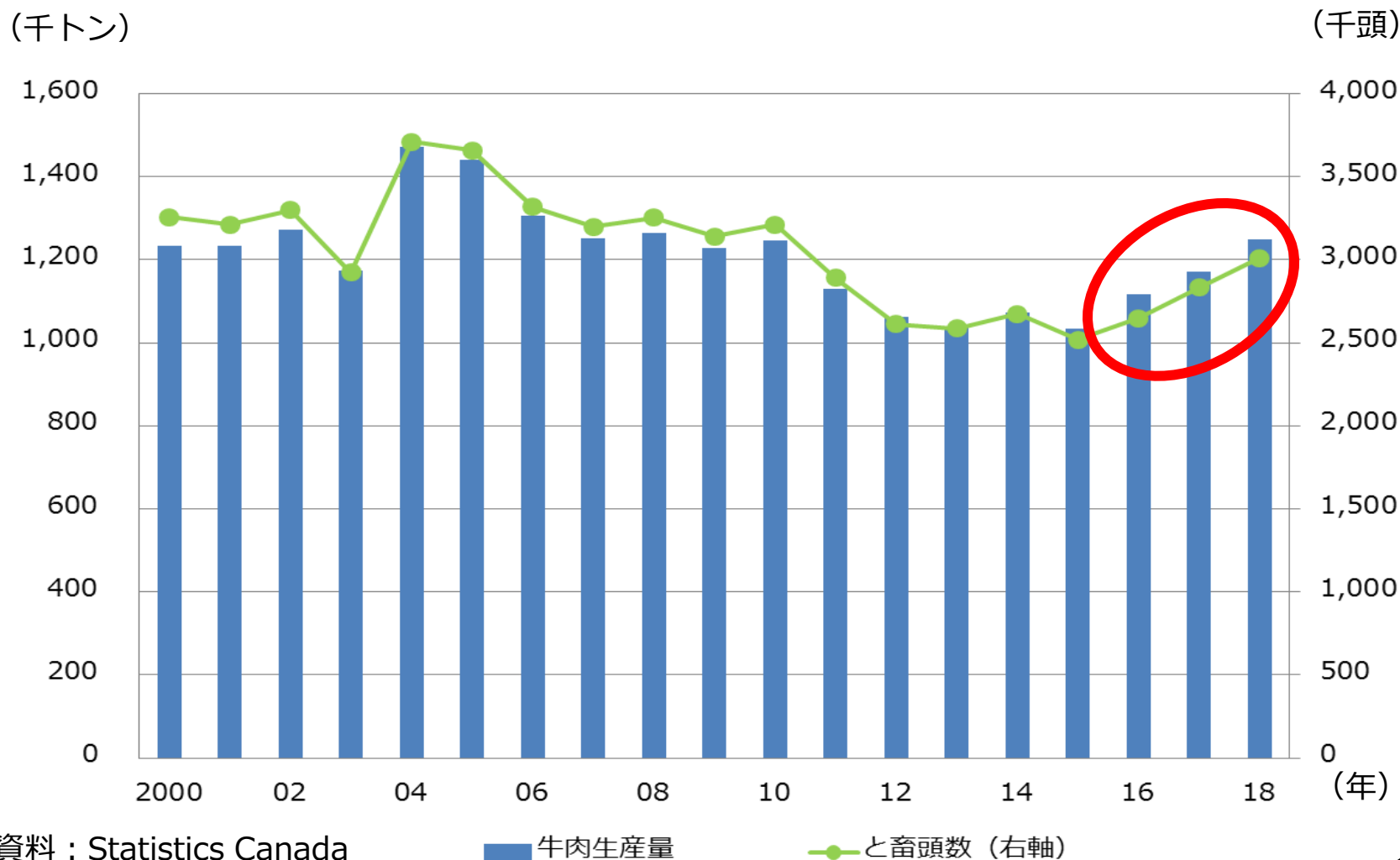


資料：Statistics Canada

注：各年1月1日時点。

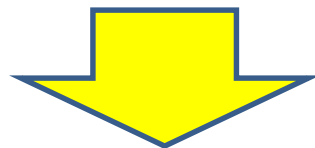
牛肉生産量 & と畜頭数

➤ 牛肉生産量は増加 ⇒ 飼養頭数とのギャップ

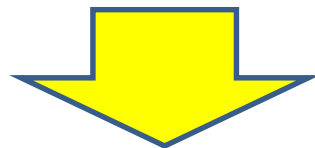


カナダの牛肉生産が増加した背景

国内外の牛肉需要の増加
カナダの牛肉価格の高止まり



牛肉パッカーの収益性向上・肥育牛需要増加



米国向け肥育牛輸出の抑制
米国からの肥育もと牛の輸入増加

牛肉卸売価格

カナダ産

(カナダドル/100ポンド)



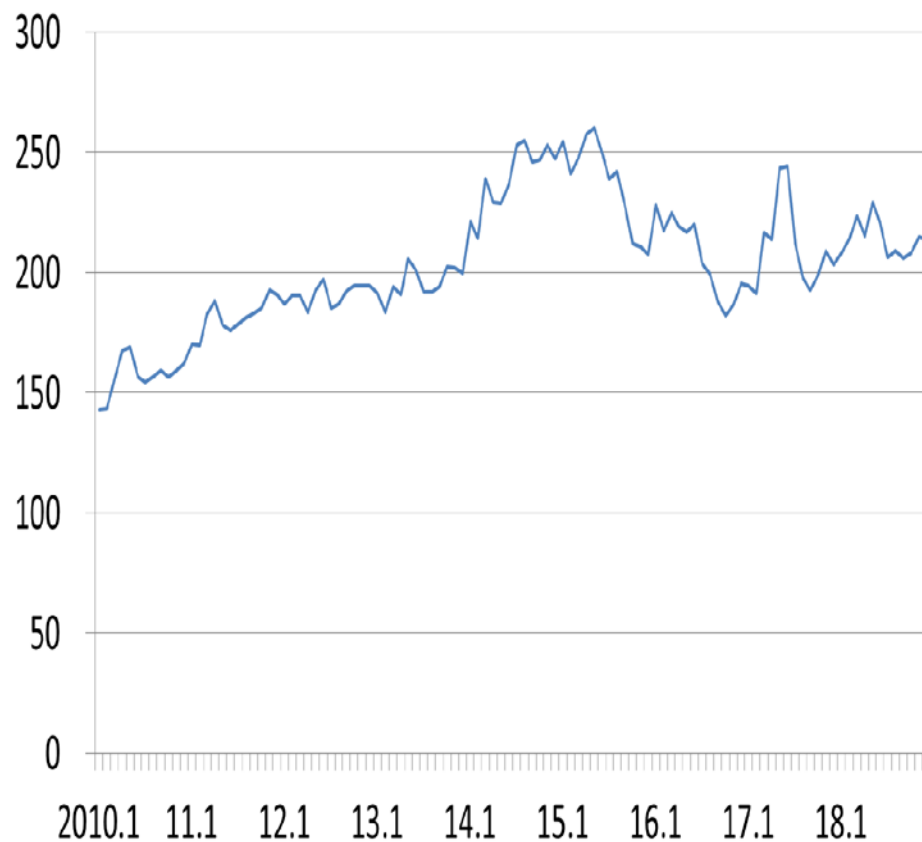
米国の牛肉価格と連動

資料 : Statistics Canada

注 : AAA級の価格。

米国産

(米ドル/100ポンド)



資料 : 米国農務省

注 : チョイス級の価格。

肥育牛価格

カナダ産

(カナダドル/100ポンド)



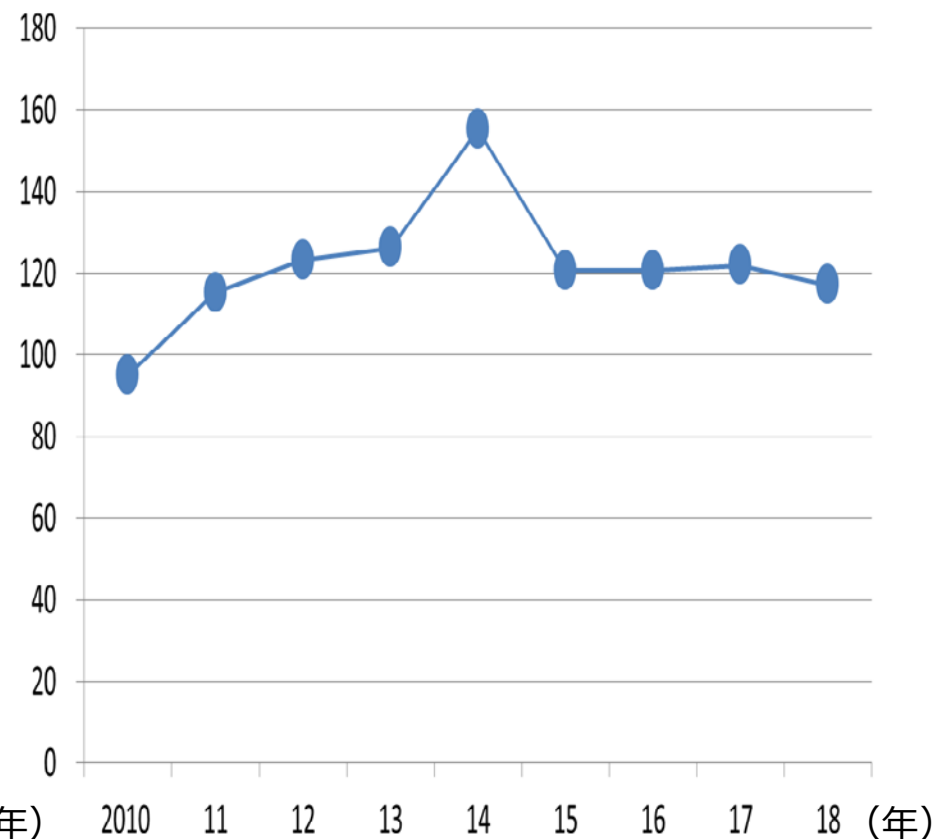
カナダと米国は、双方の市場を見ながら取引

資料：Statistics Canada

注：アルバータ市場の価格。

米国産

(米ドル/100ポンド)

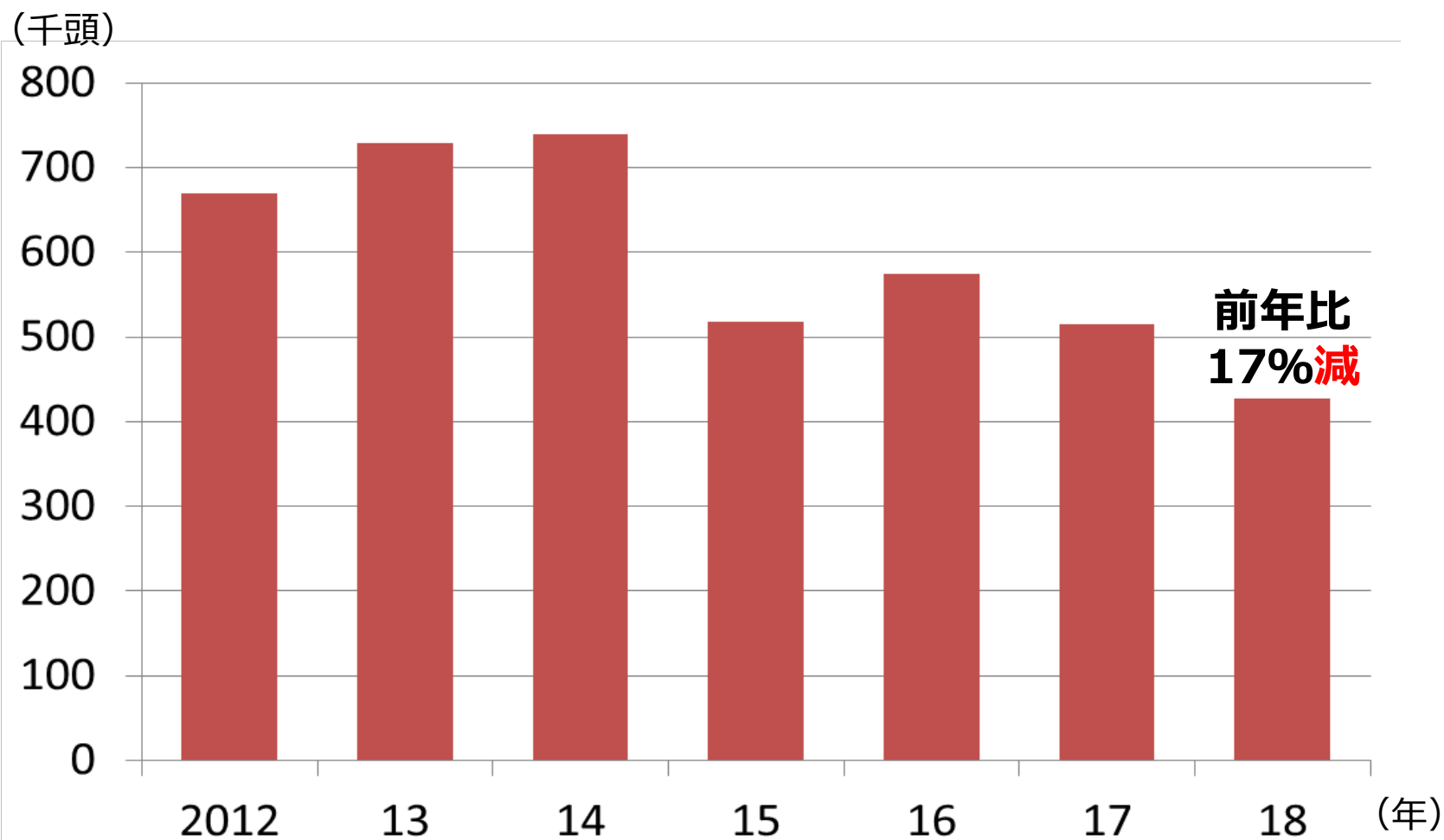


資料：米国農務省

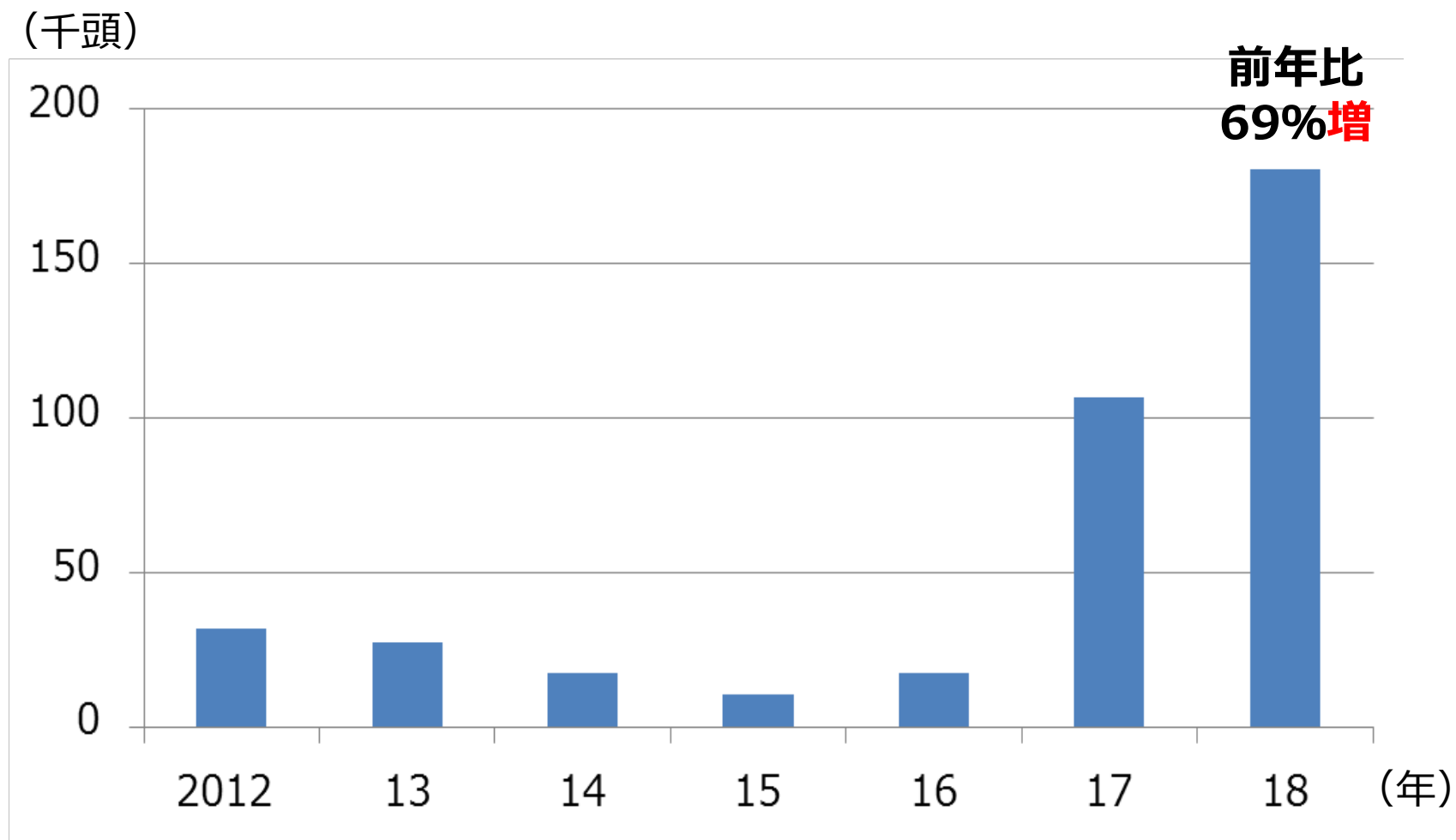
注：ネブラスカ市場の価格。

肥育牛の輸出頭数

➤ カナダ国内のパッカーへの出荷にシフト



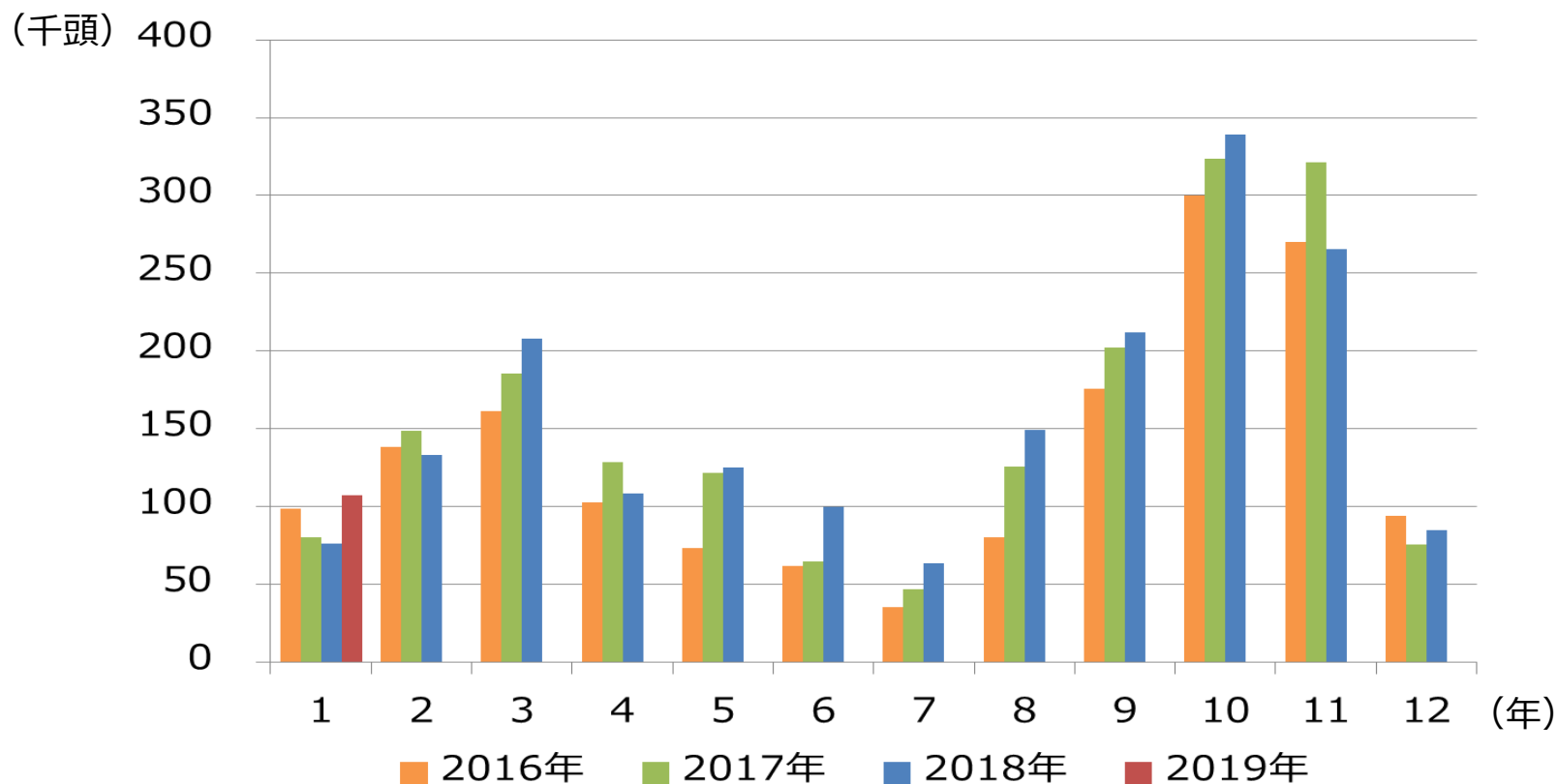
米国からの肥育もと牛輸入



資料 : Statistics Canada

フィードロット導入頭数

- 肥育牛価格の上昇などから、フィードロットの**導入意欲増加**
 - 直近6カ月の合計では、前年同期比**3.0%増**
- ⇒2019年上期のパッカーへの出荷頭数は**増加**見込み



現地調査

調査日：平成30年9月9～16日

調査地：アルバータ州およびオンタリオ州



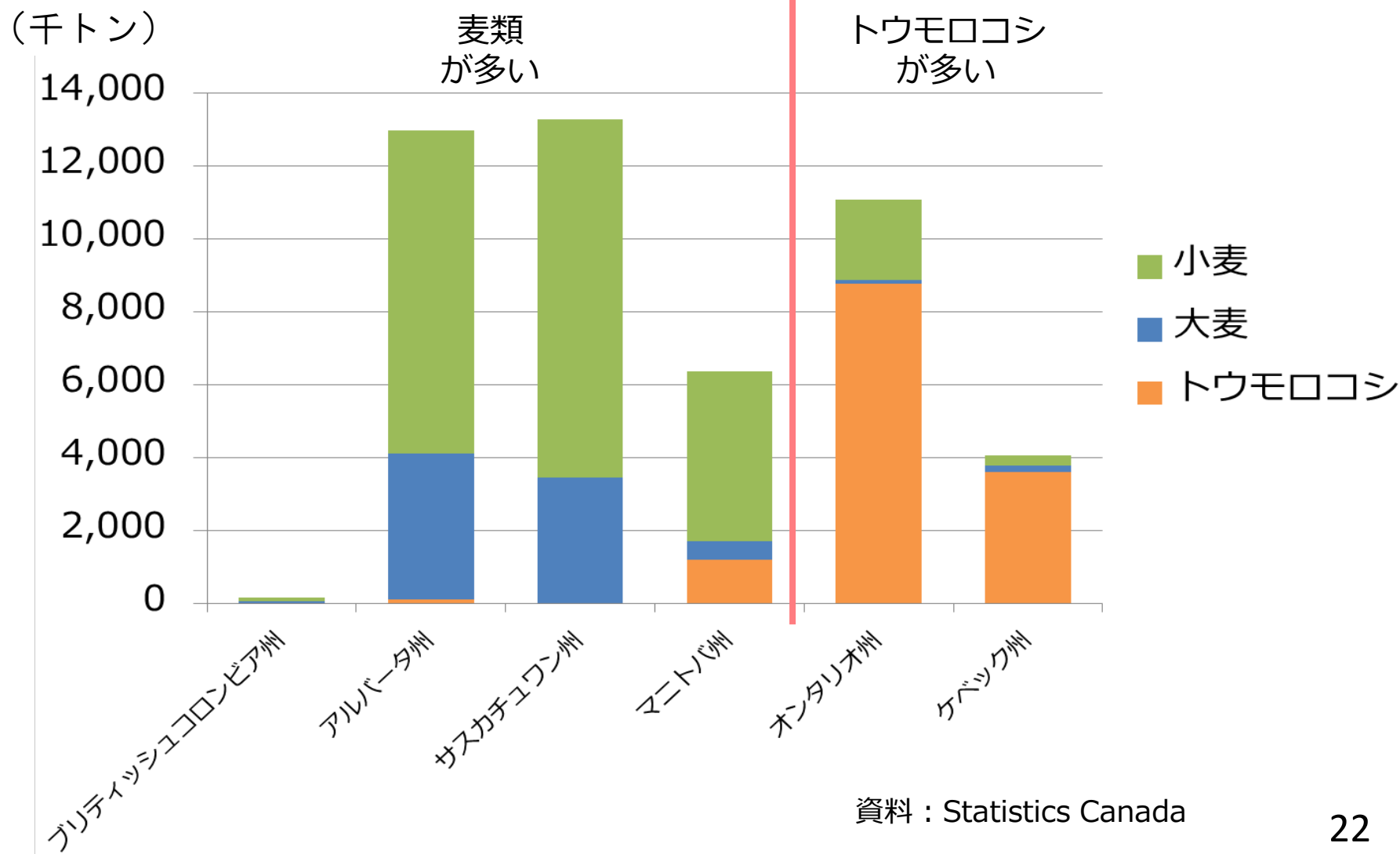


アルバータ州



飼料穀物

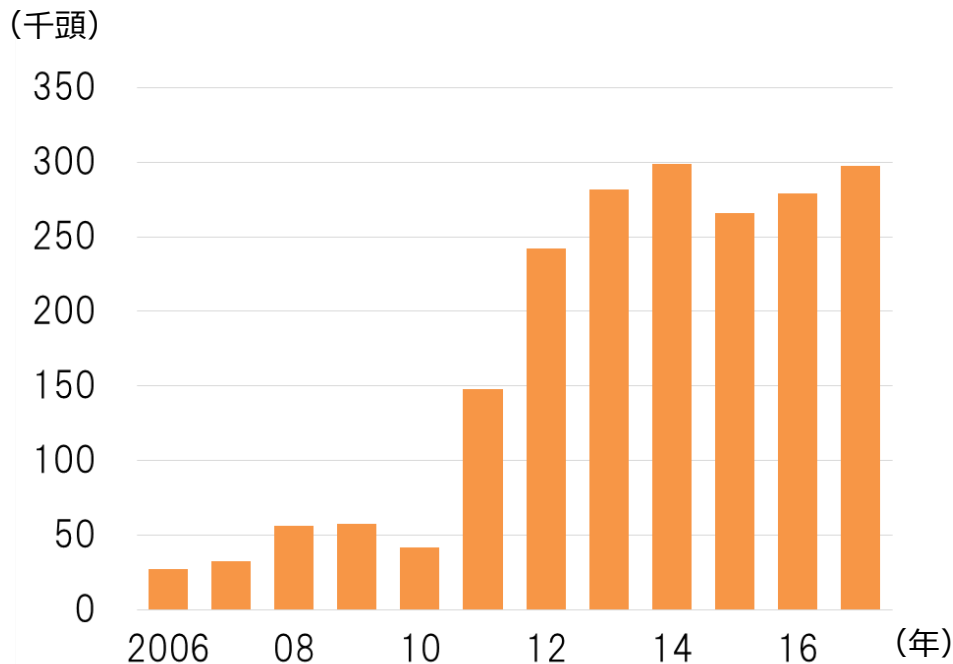
飼料穀物の生産量（2018年）



オンタリオ・コーン・フェッド・ビーフ（OCFB）

- 2001年から実施
- トウモロコシ肥育を必要要件に定めている。

OCFBプログラム登録頭数の推移



資料：OCFB



肉牛農家①（オンタリオ州）



肉牛農家①（オンタリオ州）



肉牛農家②（オンタリオ州）



肉牛農家②（オンタリオ州）





3. 今後

(1) 米国との関連性

(2) 天候

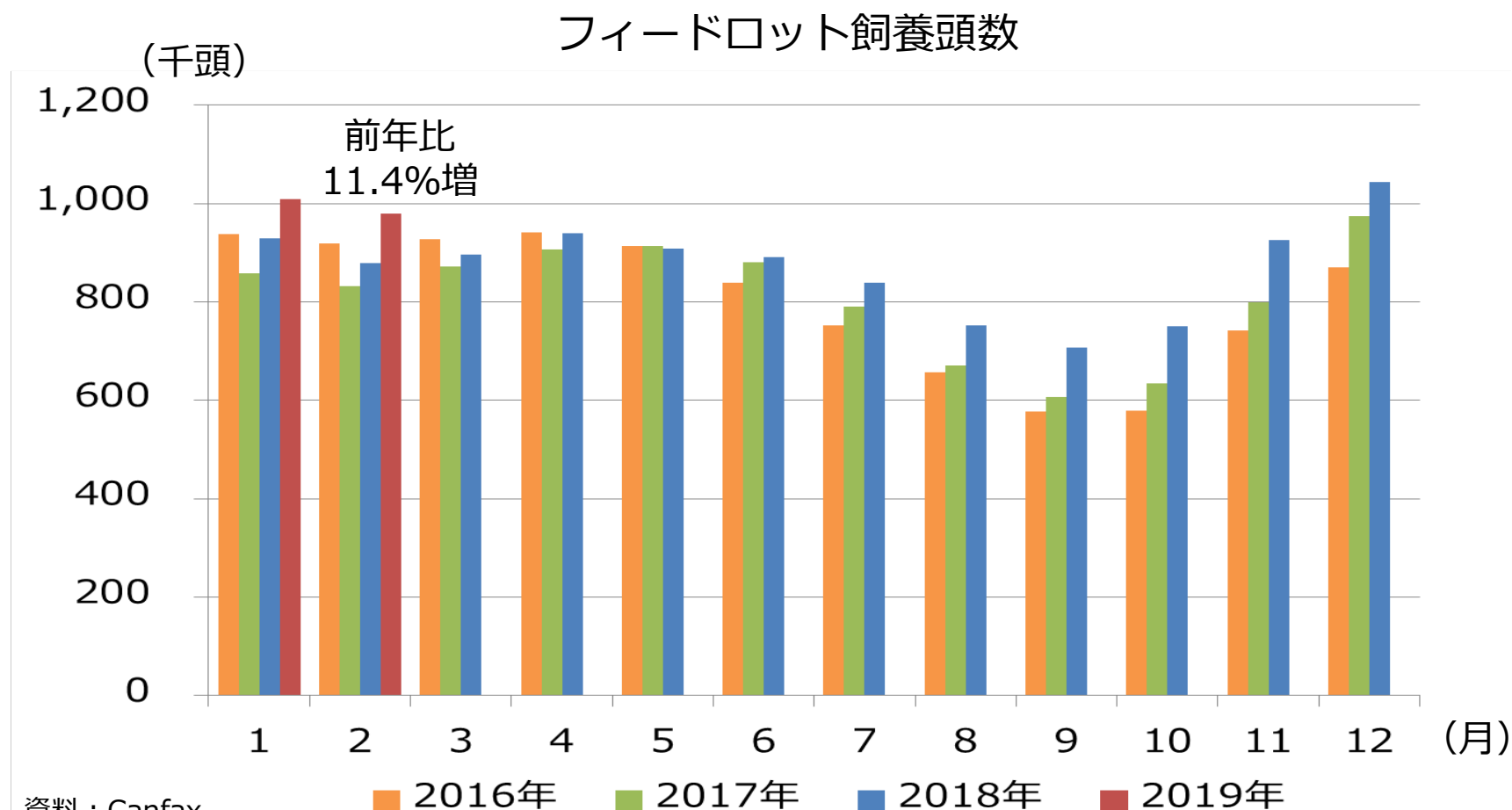
(3) 輸出

(1) 米国との関連性

- USMCAの合意
⇒これまで通りの関係
- 肥育もと牛と肥育牛の安定的な調達
⇒米国側の需給状況に左右される
 - ①カナダのフィードロット飼養頭数の増加
 - ②カナダの繁殖基盤の減退
 - ③米国の牛群拡大のペースが鈍化
- 米国産牛肉生産：前年比3%増（2019年）
⇒米国市場・国際市場での競合

①カナダのフィードロット飼養頭数の増加

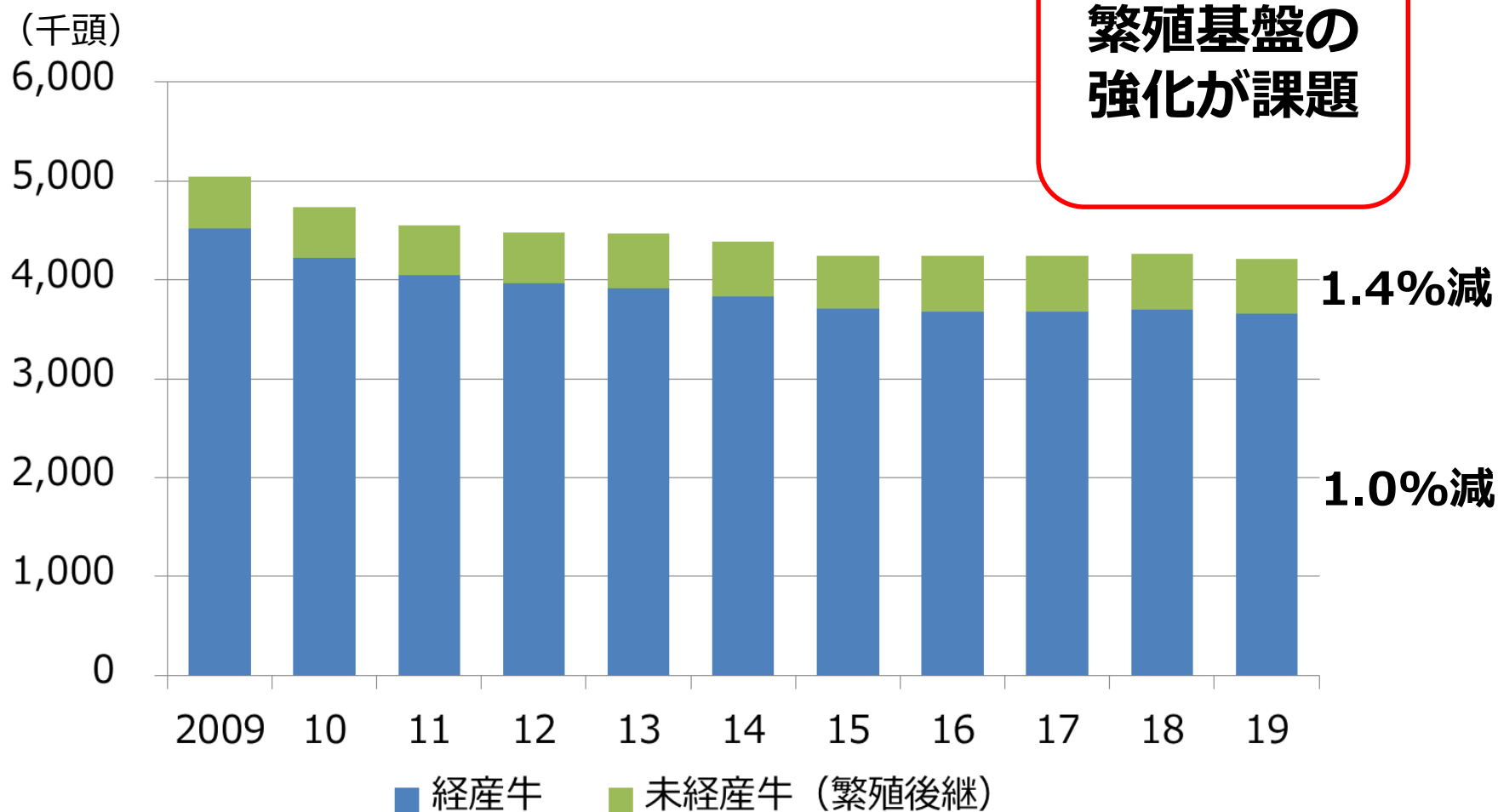
- 2014年以来の高水準（2月1日時点）
- 米国から輸入される肥育もと牛に支えられている面も



注：アルバータ州およびサスカチュワン州における収容能力1,000頭以上のフィードロットが対象。

②雌牛の飼養頭数減少

➤ 2019年も牛群の拡大は見込みづらい



資料：Statistics Canada

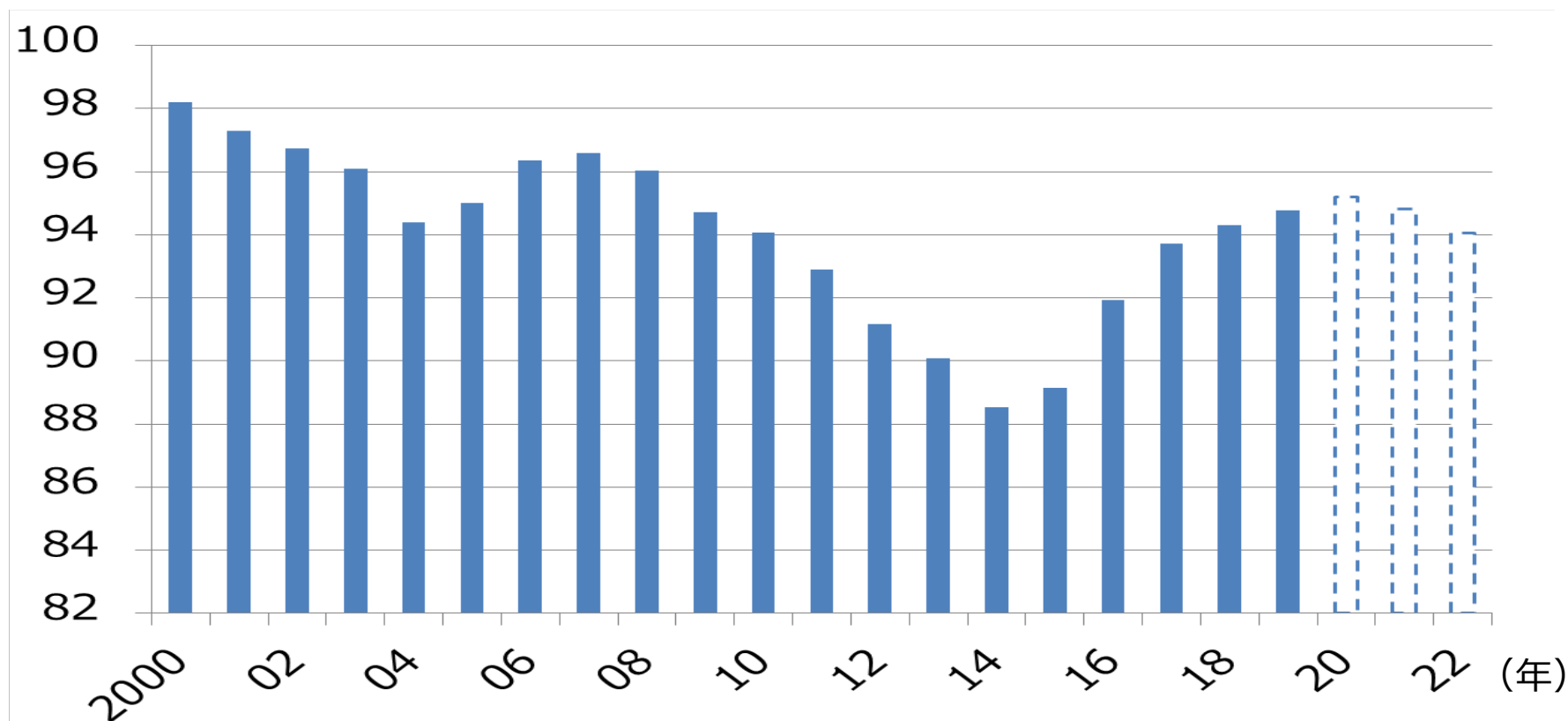
注：各年1月1日時点。

③米国の動向

- 2019年1月1日時点では、前年比0.5%増の9476万頭
- 米国の牛群拡大局面は、終わりに近づいているとも…

米国の牛飼養頭数

(千頭)



(1) 米国との関連性

(2) 天候

(3) 輸出

(2) 天候

Canada's top 10 weather stories of 2018



Government
of Canada

On this page

1. [Record wildfires and smoky skies](#)
2. [Canada affected by global summer heat wave](#)
3. [Hot and dry to snow-filled skies blunt the Prairie harvest](#)
4. [Powerful May winds cost \\$1 billion](#)
5. [Ottawa-Gatineau tornadoes on summer's last day](#)
6. [Spring flooding throughout southern British Columbia](#)
7. [Flash flooding of the Saint John River](#)
8. [Toronto's August deluge](#)
9. [Record cold start to a long winter](#)
10. [A cruel, cold, and stormy April](#)
11. [Regional highlights](#)

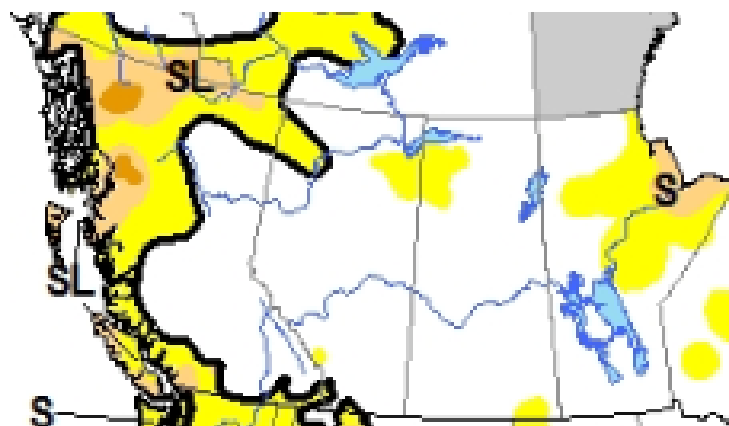
Prairie provinces

- Million dollar blizzard
 - An abundance of snow in Calgary
 - Sudden melting and ice jamming trigger Alberta flooding
 - Manitoba wildfire season early and over
 - Stormy weather challenges cattle and people
 - May's snow and cold gives way to June's heat in Churchill
 - Weather adds three hours to football game
 - Mid-Prairie storms
- 2018年春の厳しい寒さと雪嵐
 - 西部における2年連続の夏場の乾燥

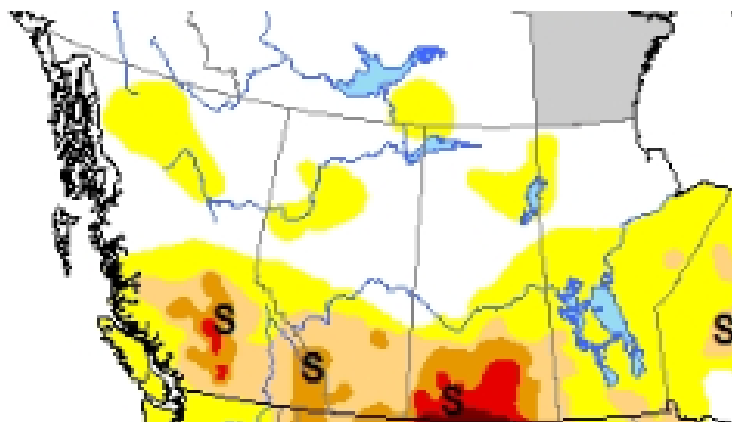
**粗飼料や大麦の価格上昇
繁殖基盤に打撃**

(2) 天候

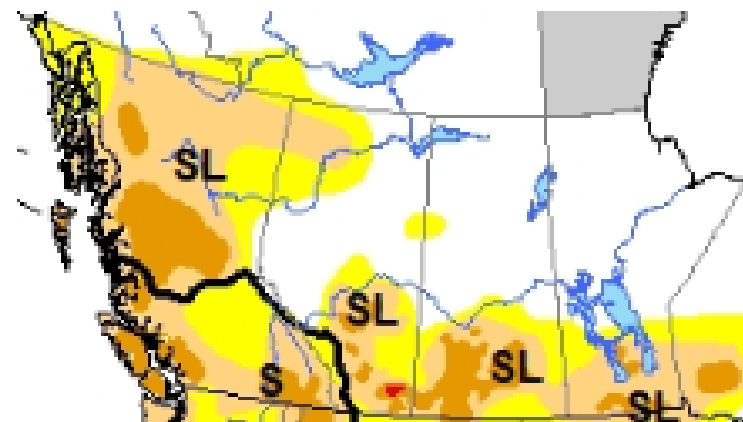
2016年(8月)



2017年(8月)



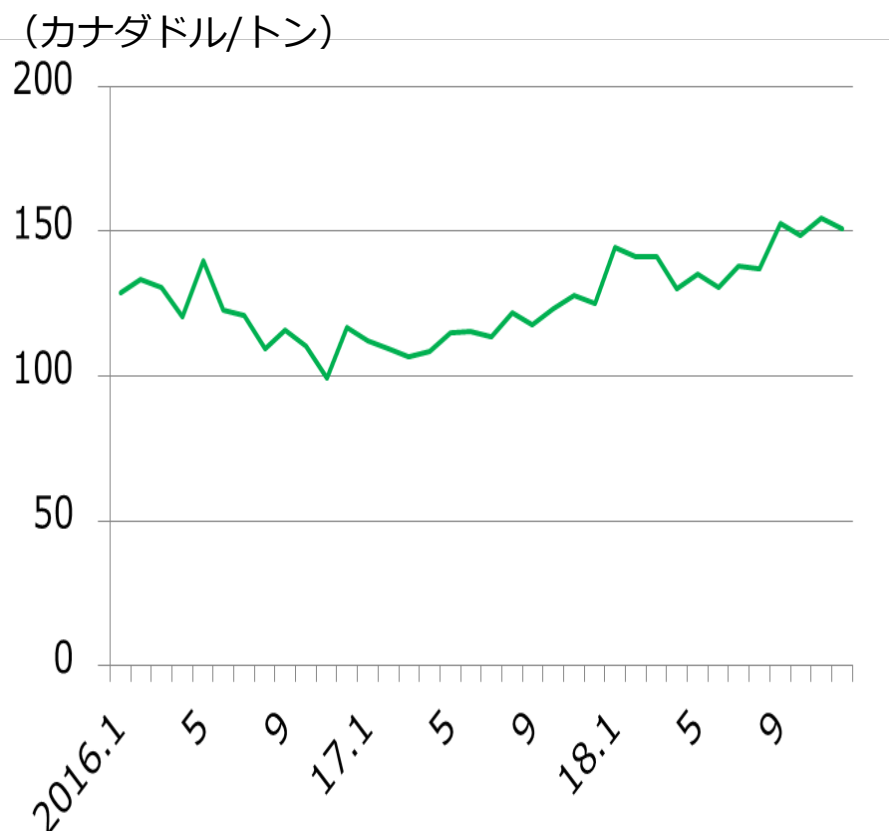
2018年(8月)



(2) 天候 - 飼料への影響

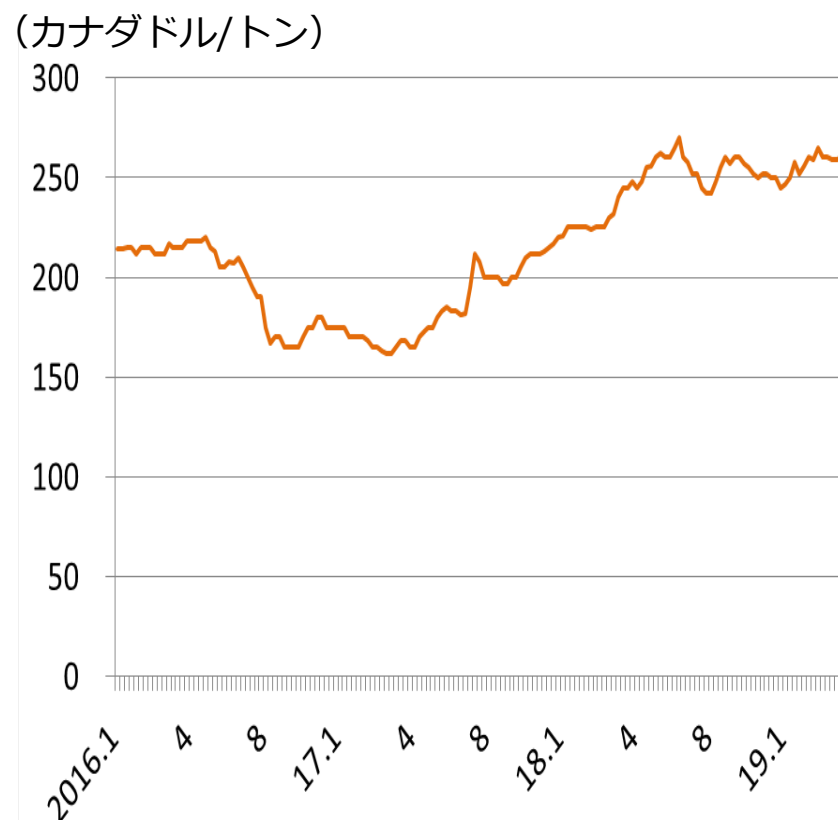
- 西部の乾燥の影響などにより、飼料価格が上昇
- 粗飼料の在庫が少ない

乾草価格



資料：アルバータ州政府

大麦価格



資料：Canfax

(1) 米国との関連性

(2) 天候

(3) 輸出

(3) 輸出

日本向け

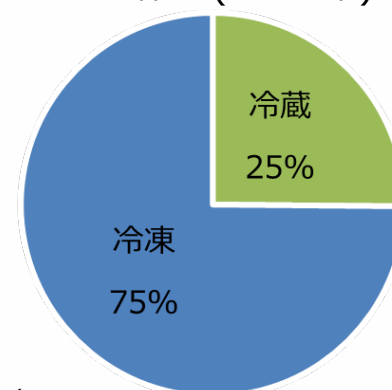
➤ 輸出機会の拡大要因

- T P P 1 1 による関税率の削減
- カナダの牛肉産業によるプロモーション

➤ 輸出機会の抑制要因

- 今後とも米国向け輸出が大半を占める
- カナダ産牛肉の安定的な供給に懸念
- 「北米産」の調整弁としての役割
→米国産の代替として、外食産業で取扱い

日本のカナダ産牛肉
輸入割合(2018年)



資料：財務省

(3) 輸出

ベトナム向け

- TPP 11による牛肉関税削減（発効2年目以内に撤廃）
- 【現地コメント】 中間所得層の増加に伴う牛肉需要の増加に期待

中国向け

- 冷蔵牛肉の試験的輸入を承認
- 【現地コメント】 需給が不安定でリスクがある

韓国向け

- 【現地コメント】 チャックアイロールなどの輸出先
- 【現地コメント】 米国産が米韓FTAにより優位

4. まとめ

生産

- 牛肉生産量・輸出量は増加傾向にある
- ただし、米国の牛群拡大や安定したトウモロコシ生産に支えられている面も
- 牛群の再構築が課題

輸出

- 日本、ベトナムなどへの輸出拡大に対する現地の期待感
- 米国との強いつながりを継続
(米国の需給動向による影響を強く受ける)

ご清聴ありがとうございました。

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）の右にある「メールマガジン」ボタンからご登録ください。



本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。